



ダンス作品作りを体験しよう

スクランブル・ダンスプロジェクト

障がいのある人もない人も一緒に

みんなは“そこ”にいてだけで作品なんだよ
大野慶人

開催日時

2019年3月9日(土) 11:00~12:30
(10:30より受付)

会場 小田原市民会館 小ホール(本館3階)

参加費 100円(保険料)

対象 小学3年生以上
障がいを持つ方、その保護者
このような取り組みに興味がある方

定員 30名程度(申込先着順)

申込方法

3月1日(金)までにEメールにて、件名に「スクランブルダンス申込」、本文に氏名、年齢、住所、電話番号、メールアドレス、参加動機をご記入の上、送信ください。

申込先 NPO法人アール・ド・ヴィーヴル
info@artdevivre-odawara.jp

NPO法人アール・ド・ヴィーヴル <http://artdevivre-odawara.jp>

障がいを持つ人に活動の場を提供する団体。アートディレクターとして障がい者のアート活動に多く携わってきた優れた指導者のもと創作活動を行う。アートワークショップのほか、織り、陶芸、料理、英会話、親子ヨガなど、障がいを持つ人のためのさまざまなプログラムを定期開催。2016年4月、小田原市久野に就労継続支援B型事業所をオープン。アール・ド・ヴィーヴルという名称は「自分らしく生きる」という意味のフランス語に由来する。

障がいのある人もない人も、互いにその人らしさを認めあいながら、共にダンスを創る「スクランブル・ダンスプロジェクト」。

舞踏家の松岡大さんを講師にお迎えして、ダンスワークショップを行います。周りの空気や音を感じて、身体全体で表現してみましょう。ダンス経験がない人も大歓迎です。

講師 松岡大 Dai Matsuoka

上智大学卒業。桑沢デザイン研究所卒業。2005年より山海塾に舞踏手として参加。「金柑少年」「とばり」「うむすな」「めぐり」などの主要作品に出演中。2011年より、街を歩きながらミュージシャンとダンサーによるライブを鑑賞するウォーキング形式のパフォーマンスイベント「LAND FES」を主催。障がいの有無に関わらず子供たちとアーティストがともに創りあげるインクルーシブワークショップ「音ととつと」主催。2016年12月には、故・蜷川幸雄氏の意思を引き継いだ、高齢者による世界最大級の群集劇「一万人のゴールドシアター 2016」にてムーヴメント演出のディレクションを務めるなど、多方面で活躍。



Photo by 安藤誠

監修 大野慶人 Yoshito Ohno

1938年東京に生まれる。1959年土方巽の「禁色」で少年役を演ずる。60年代の暗黒舞踏派公演に参画。69年初リサイタル後に舞台活動を中断、1985年「死海」で大野一雄と共演、カムバックした。1986年以降大野一雄の全作品を演出。近作にヴァッパタル舞踏団ダンサーとの共演「たしかな朝」(2010)、音楽家アントニーとの「Antony & Ohnos」(2010)。ソロ作品「花と鳥」(2013)はヨーロッパ(2014)、ブラジル(2015)を巡演。著書に『大野一雄 魂の糧』(フィルムアート社)、『舞踏という生き方』(かんた)。



主催・お問合せ 小田原市役所文化政策課 TEL0465-33-1706/FAX0465-33-1526 (平日9:00-17:00)

共催 NPO法人アール・ド・ヴィーヴル 協力 大野一雄舞踏研究所

小田原市文化創造活動担い手育成事業

ダンス作品作りを体験しよう
スクランブル・
ダンスプロジェクト
障がいのある人もない人も一緒に

ワークショップの様子



はじめはストレッチから



松岡さんの言葉で動き出す



歩きながらハイタッチ！



やわらかい綿になって踊る



バラの花になって踊る



みんなでつながって踊る～

参加したみなさんの声

- はじめは照れくさくて、どう動いていいかわからなかったけれど、時間が経つうちに、自分の内側を表現することがこんなに気持ちの良いものかと実感しました。
- 他の人と親しくなれ、キレイな踊りができて良かったです。
- 伸びやかに、自由に動いていく。静かに穏やかに。こんな風な踊りがあるのだな～と不思議な気持ちで見つめていました。
- 悲しみと喜びの表現では、泣けてしまいました。そしてスッキリしました。
- 普段生活をしているとあまり関わらなかったり、知らないまま終わってしまったりしていたので、もっといろんな人と交流して自分の知識を深めていこうと思いました。
- 居るだけでよいという安心感を感じられました。